

神 手津王（じん・てつおう）

1、プロフィール

川柳作家。主に県内を中心に好作家として活躍し、青森市にある八甲田川柳社の初代代表を務めた。

<生没>

1921(大正 10)年8月 10 日～1979(昭和 54)年5月8日

<代表作>

句集『鉄路』

<青森との関わり>

青森市に生まれ、国鉄に勤務。

2、作家解説

大正 10 年青森市に誕生。本名鉄男。昭和 22 年国鉄青森用品庫勤務、以後定年まで国鉄に勤務する。

昭和 28 年、東奥日報紙の東奥柳壇に投句し川柳入門。昭和 30 年、田沢良太、三浦春風楼らと新人会結成、後に津可呂川柳社に合流。昭和 48 年新生の道を求めて津可呂川柳社から分かれた 26 人の柳人が八甲田川柳社を結成、その初代代表となる。

八甲田川柳社代表として、また好作家として県柳壇の発展に貢献、温厚で誠実な人柄で多くの柳人に慕われた。国鉄の全国川柳部門の1位に入賞する等、国鉄で全国的に活躍した。

昭和 54 年3月定年退職。同年5月8日死去。享年 59 歳。

3、資料紹介

○『鉄路』

図書

1980(昭和 55)年5月8日

185mm×135mm

川柳句集。遺句集、著者生前の作品より厳選し419句にまとめた。著者の人柄が滲み出ている句集である。

序文は親交の深かった奥昭二。編集田沢良太、発行神徹、発行所八甲田川柳社。